

一月

H-0961

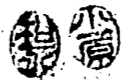
0006

大正十三年

第一課長

第二課長

原 邦 光



「東洋平和の道」

制作に就いて

此の目標の爲に我が精銳の軍は幾多の犠牲をも顧ず奮闘し此の目標の爲に我が銃後の民は幾多の困苦に耐えて居るのであります。此の擧國一致の努力は漸々にその實を結び既に北支の一角には平和の光輝ひ迷夢より醒めた支那國民は進んで友邦日本との協和を願つて居ります。かゝる時に於てこそ兩國國民の眞の理解、眞の友情が必要とされるのであります。

今回の日支事變の結局の目的が日本支那兩國の眞の提携に由り東洋平和永遠の礎を築くにある事は言ふ迄もありません。

此の目標の爲に我が精銳の軍は幾多の犠牲をも顧ず奮闘し此の目標の爲に我が銃後の民は幾多の困苦に耐えて居るのであります。

此の擧國一致の努力は漸々にその實を結び既に北支の一角には平和の光輝ひ迷夢より醒めた支那國民は進んで友邦日本との協和を願つて居ります。

かゝる時に於てこそ兩國國民の眞の理解、眞の友情が必要とされるのであります。

先に日独協同映画「新しき土」を製作して兩國交驩に些かの貢獻をなした我が社は此処に日支協同映画「東洋

1.

H-0961

平和の道への製作に由り再び日支両国民間の融和に役立
たうと努むるものであります。

幸ひに此の企ては各方面の御賛同を得、遠く北支の各地へ
撮影に赴く事が出来ました。

又支那側よりも此の企てに対する熱誠なる歓迎を受け現
華北大学教授張迷生氏を監督補導に迎へ主演俳優には
應募者三百五十名中より五名の男女を選定する事が出
来ました。

此の一事を以つて見ても如何に日支両国は近づきつゝある
かといふ事を思はせられるのであります。

さて、此の日支協同映画「東洋平和の道」の物語は別紙
の如くであります。この映画の製作に由つて吾々は左
の三つの目的を果たさうとするのであります。

一、此の映画を日本国民に見せる事に由つて隣邦
支那大陸の自然、人情、風俗を傳へ以つて支那
に対する日本国民の理解に役立たせる。

一、此の映画を支那国民に見せる事に由つて彼等に
今回の事変の眞實を認識させ、今後彼等の行く
可き道を示す。

一、此の映画を廣く外國民に見せる事に由つて今
回の事変に対し、とかく誤られ勝ちの吾が眞
意を諒解させ、小さくは戦の意義を説明し、大
きくは東洋の眞の姿を外國に示す。

かゝる意図の下に、此の映画を製作するに当り吾々は
出来る丈正直に戦渦の中の支那を描寫する事に努め
て居ります。

戦ひに対する支那農民の不安、都會人の不満、老人の
哲学、それに対する我が皇軍の情け、寛大、勇敢等、す
べてありの儘に描く事に努めて居ります。

何故なら眞實のみが人の心を打ち、示唆を與へるものな
のですから。

尚此の映画を完成させる爲に一月下旬張迷生氏始め五
名の男女俳優が日本へ参ります。

戦ひを超えた両国の国民が交す交驪を意義あるもの
に致し度いと望んで居る次第であります。

東洋平和の道

花 輪 男

東和南東映畫部宣傳部
東京市豊町区内幸町二丁目
電話九ノ内(四)三〇八四七五

大 澤 三 郎

經濟雜誌「ダイヤモンド」社
東京市豊町区内幸町二丁目
電話九ノ内(四)三〇八四七五

梗概

戦ひである。

日軍は容共抗日を続ける南京政府を以て東洋平和への道を拒むものとし、兵を起して之を支那大陸に伏せた。

殷々たる砲声が北支の空に轟いてゐる。

大同の奥、吉家莊の村はつれで若い趙福庭は妻の蘭英と共に畑を耕してゐる。

二人とも戦ひの近づく不安に胸を押さへられてゐる。

「俺達も南へ逃げた方がよさ、うだな」

やがて趙が思ひ切つて決心を口に出した。

蘭英は住み慣れた家や畑を後にして知らぬ他國へさまよひ出なくてはならぬのが哀しかった。彼女は恨めしさうに夫を見上げた。

H-0961

「いつ又歸つて來られる事かしら？」
と呟いた。

そんな事は夫も知らなかつた。趙は黙々と床下から貯めてあつた銀を取り出した。

蘭英は有る丈の家財道具を風呂敷に包み込んだ。彼女が丹精して肥らせた黒豚は置いて行くより外はなかつた。でも蘭英は可愛がつて育てた小鳥だけは連れて行かうと決心した。趙は苦笑してそれを許した。

その外に蘭英が夫にも内緒でそつと懐にしのはせたものがある。

朝から晩まで、その上に立って働いた彼女の畑の土の一握りであつた。

日暮れまで掛つて二人はやつと小さな村に辿りついた。

(2)

趙は妻を水賃宿に落着けると直ぐ食物を買ひに出掛けた。

突然頭上に鋭い轟音を聞きつけて趙が振り仰ぐと、それは銀色に光つた日本の飛行機だつた。機は粉雪の様に無数の傳單を撒き投げると翼をひるがへして瞬く間に雲の間に消へて行つた。趙はこはくその一枚を拾つて見るとそれにはこんな事が書いてあつた。

|| 日軍は連戦連勝間もなく此の村にも入城する。

併し日軍は決して良民を傷つけないから皆は安心して業に就いて居れ ||

村では支那軍が連戦連勝と聞いておたのにと趙は不審がる。併しどつちが勝つてゐるにしろ戦争からは逃げぬはをらぬ。

彼は大急ぎで焼餅を買って拾った傳單でそれを包むと宿に歸つて来た。

薄暗い灯の下で妻はじつとすくんでみた。彼が焼餅を渡し序に買つて来た小鳥の餌を手に乗せてやると蘭英は急にす、り泣きを始めた。

趙は慰めるすべもなく痛々しい妻の姿を見ておたが聴て風呂敷の中から古びた二胡(胡弓の一種)を取り出して弾き始めた。

咽び泣く二胡の音が蘭英の忍び泣きをかき消した。それは蘭英の大好きな王堂春の曲だった。

(3) 翌朝二人は又旅を續け大同に近い石佛寺の前へ出た。戦ひは昨夜のうちに彼等の道から逸れたと見え此処には最早日軍の佈告が貼られてゐた。

——此の石佛は古界に類なき藝術品故これを損傷する者は

嚴罰に處す

日本軍

蘭英は一心に石佛を拝んだ後で趙を見上げた。

「私、小鳥を此処で放してやりませうね。」

私達はこれから先どうなるか分らないし、此処で放してやれば、きつと此の佛様達が守つてやつて下さるでせうから。」

蘭英は籠の扉を開けた。小鳥は暫らくためらつておたが、やがて飛び出して大空へ消えた。いつまでも小鳥の後を見送つてゐた蘭英は背後から砂煙を立て、馳つて来た軍用トラツクに登島かされた。トラツクには鬚をぼう／＼にははした日本兵が一杯詰まつてゐる。二人は顔色を変えて立ちすくんだ。一人の兵士が覺束ない支那語で

「何処へ行く」
と声を掛けた。

「大同へ」
と趙はやつこの事で答へた。

「ではこれへ乗つて行け」

と兵士は無理に二人をトラックに押し上げた。

蘭英は夫にすがりついてふるへてゐる。

兵士達は疲れてゐるらしくうと／＼とトラックにゆられてゐたが、その中の一人が煙草を出して趙に與へ蘭英にはキヤラメルを手渡した。

趙はお禮に恐る／＼持つて来た柿を兵士に差出した。兵士は喜んで白い歯でかぶりついた。

その子供らしい顔を見てみると趙は今まで日本兵について

(4)

考へてゐた自分達の考へがまるで違つてゐた様を気がして来た。

大同の驛

此処は日軍に占據されて停車場は避難民でごつた返してゐる。一輛の軍用列車に趙夫婦は避難民と共に押し込まれて了つた。

列車は南へ行かず北へ北へと走つて行く。

それが張家口へ行くのだと聞かされて趙は驚いて了つた。

「仕方がない、張家口には従兄の王民生が北京から赴任してゐる筈だ、あれを訪ねよう」

併し王民生は一年も前に北京へ歸つたと張家口の家主は趙に告げた。

蘭英はすっかり失望した夫の姿を見ると態と元気に

「では一層のこと北京まで行つてしまひませう」と言ひ出した。

趙もやつと妻の言葉に勇氣を取り戻し

「さうだ北京は何時の戦争にも一度も巻き込まれた事のない所だ。其処で王と逢へばよし万一逢へなかつたら何か商賣でもして戦争の済むのを待たう」と決心した。

二人は驢馬を一匹買つて旅を續けた。

萬里の長城を越え、明の十三陵まで辿り着いた時だった。石獸のかけから不意に農夫のなりをした数名の敗残兵がとび出して来た。

趙の驢馬を矢庭に荷物ごと奪はうとする。

「何をするんだ？」

(5)

と趙は必死に抵抗した。

「俺達は支那の爲に戦つた兵士達だ。いくさに負けて食べるものもないんだ。お前達の爲にやつたいくさなんだからお前の持つてゐるもの位よこしなつていっだらう」

「そんな法があるものか俺達が頼んだいくさおやあるまいし」

趙は無中で争つた。

蘭英は怖ろしさで大声を上げて救を求めた。

陵にゐた保安隊の一人がその声を聞きつけて合図のピストルを打った。

忽ち近くの部落から四五名の日本兵が現れて敗残兵に立ち向つた。

彼等は脱兎の様に山へ逃げ込んでしまつた。

間もなく趙夫婦が辿り着いた部落では一様に日の丸の旗を掲げてゐた。

趙も日の丸の旗が持ちたくなつた。何故ならそれが彼等であらゆる危険から守つて呉れるらしい事を趙はおぼろげに感じていたからである。

北京

漸々尋ねて来た王家の心からの歓待を受けて二人は幾日振りかに安らかな夢を結んだ。

翌朝蘭英は民生夫人の美しい服を着せて貰つた。都風の服を着て髪をとがした蘭英は見違へる様に美しくなつた。

民生夫人と妹の玉琴とは彼女に北京の街を見せた。

戦も知らぬ顔に北京の街は静かに古い文化を誇つてゐる。併し王の家では民生はじめ夫人も妹も

(6)

之等の若い教養ある都會人たちは密かな憤りを胸にくゆらせてゐた。

それが道々戦の顔と直面して来た趙達の印象と食ひ違つた。趙には彼等の憤りが理解出来なかつた。

彼等には趙の感じ方が安っぽい御都合主義としか思へなかつた。

若い者達の論調が次第に烈しくなつて来た時、年老ひた民生の父が静かに若者達を制した。

『お前達の考へ方は夫々正しいが皆若い小さを考へ方ぢや。支那大陸の此の大地から生れ出でた考へではない。』

支那の姿は黄河の流れぢや。

清濁併せ呑んで自らの姿は変らぬ。

戦は風雨ぢや。

(7)

風吹げは波も立たう。それもよいのぢや。
風凪げば波も静まる。これもよい。

戦は既に起きた。そして漸くは終るであらう。』

この時老人の言葉を裏書する様に街には南京陥落と新
政府樹立の号外が鳴り響いた。

北京は九年振りに五色旗を掲げ爆竹の音が辻々に轟き
渡った。

老人は水の様を静かな面^{まへ}で若者達を呼び寄せた。
『お前達には様々な感慨があるであらう。

併し今こそ此の戦いを善用すべき時なのぢや。

お互の過を忘れて日支はしつかと手を握るのぢや。

東洋平和の道は其処にのみ開かれる。

民生、お前は此の心を以て新政府を助けなさい。

福庭、お前は此の心を以てお前の畑に歸りなさい。

人は皆各々定のられた仕事を誠心こめてやって行くのが才

一ぢや。』

趙とその妻とは戦ひ終つた故里に歸つて行く。

曉きの光りが静かに温める大地を踏んで。

H-0961

0016

東和商事映画部製作
日華協同第一回作品

東洋平和の道

スタッフ

配役

監督 鈴木重吉

構成 鈴木重吉

脚色 張迷生

撮影 藤田英次郎

編輯 草野信男

補導 鈴木重吉

張迷生

趙福庭 徐聰

蘭英 白光

玉琴 李明

音楽其の他未定

H-0961

0017

昭和十三年一月

昭和拾參年貳月七日

支那農村の發展問題

二
一
林
魚

秀島達雄

支那農村の發展問題

目次

| | |
|-------------|------|
| 緒言 | 一頁 |
| 一 支那農村の基本問題 | 三頁 |
| 二 支那農村經濟の動向 | 四五頁 |
| 三 支那農村經濟の建設 | 九五頁 |
| 四 支那農村の發展問題 | 一三五頁 |
| 五 結語 | 一四五頁 |

H-0961

0018

支那農村の發展問題

香島建雄

緒言

何時まで續くか解らぬが、今次事変は事変であつて原因もなく、目的もなく、日本で計画的にしたことでもない。がしかし今日の日本としては大きい目的を以て進んでゐる。わが軍事行動の目的は支那の抗日を根本的に中止せしめることではあらうが、それは單に抽象的な抗日中止によつて満足するものではない、具体的には日支提携を表現することになければ無意味である。現在までの支那事変によつて支那の受けた軍事、政治、經濟の打撃は致命的である。しかし一被國內情勢が如何なる窮境に陥らうとも抗日態度を辭へて容易に日本に屈服することを許さない状態にあるのである。過去二十年間培つた抗日教育の結晶が實力的敗退によつて掌を離すが如く親日に轉化することは考へられない事だ。日本は少くとも、具体的には日支提携を表現するこの信念を實行する為既に戦闘行為に許したのであるから、事には至つては占拠區域に於て遠慮なく日本の信念を具現しなればならない。

日本には領土的野心はない。だが日本が支那に求めて居る根本の要求は世界資本主義の崩壊期に際しての極東諸民族の新しい團結であり、それを理解せずして頻りに改米諸國との提携によつて日本との對立を計らんとする支那支配階級の策動が決して眞實の極東解放を齎すものではないが故に遂に日支の衝突を激発したのである。彼等を眞の覺醒まで引戻すことは困難ではあるが日本は凡ゆる角度に於て現代支那を認識して今後諸多方策を取る上に十分の誠意と果斷を重む必要がある。

近時北支開發、對支工作の論が叫ばれてゐるが勿論之等の論者は何れも都市を中心とした政治、文化、經濟の中心を置いてゐる観があるが、之は今後の日支提携に於て又戦後の支那民衆に直接間接に深い影響を與へるものがある以上充分討究されねばならない重要な問題である。支那人口の八五割強までが農民である故に農民と相手とし又基礎として始めて政治なり、文化なり、經濟なりの發展工作は考究さるべきものであつて机上の虚論であつてはいけないのである。

現在日本は北支一帯を占拠し既に治安も維持されつゝある。日本と最も

関係深い北支に先づ範を垂れて引いては支那全土の農民を指導する操今後考
策とすべきである。この北支に又中支に日本はその回復の方策を構じ實行し
て支那民衆生活の安定に力を到せねばならぬ。之は日本としての義務であ
り東洋永遠の平和確立の上に於ての當然の歩みである。

一 支那農村の基本問題

支那は本来農民の國であつて支那人口の四分、三は農業に従事し國民所有
の五分、四は農業から得てゐるのである。従つて支那の文化は大部分農業を
基礎として建設されたものと言ひ得る。故に支那を形成するものは農民であ
り、農業はこの國の社會並經濟的構成の土台をなすものであつて地方農村が繁
榮してこそ支那は進歩するのである。

支那が農本國である以上、我が對支政策は先づ支那の農村問題の究明にかゝ
らねばならない。先づ支那の農村を分析してこそ支那の國家機構や共産党の
動きや秘密結社の存在や列強の角逐や内訌の意味や動向が分明するのである。
多くの支那研究者は各々の部門に於て異なるが、支那を論ずるに政治、經

三
四

済を中心として他方に亘り問題の解決を試みんとしてゐるが、之は最も間違つ
た論見であつて厄むべき態度である。支那を解剖し支那の長短を取捨登展
させるためには、支那農村を全般的に研究し指導する外に途はない。何故なら
ば、農民が全國の人口の九割を占めてゐる上に於て、政治も經濟も文化も軍事も
總ての國家体制は此農民を基礎として出発し構成せられねばならないからであ
る。支那の農村問題と一口に言ひ得るけれども、その複雑にして困難なもの
は他の問題の比下はない。

二 支那農村經濟の動向

支那農村の動態は實に複雑多岐極りなき様相である。それは餘りに政治的
軍事的に幾たび處理しやうとするかためであらう。

支那農村に對する支那官僚政治の態度施政は壓制的であり、慘酷なもの
である。

少くとも民衆の信頼する中央政權は確固たる方針なく、地方政權は各々自主
的放擲なる悪政を對して、その横暴の標は新興の支那として悲しむべき様相である。

革命に次ぐ革命によつて現今は文化的経済的にも發展して来た為等が農村復興問題について對策を構じ又實行せられつゝあるがそれは決して完成されだ出發でなく偽政者連の誤策に弄されてゐる状態である限り今後此點を充分正すことの要がある。中下層を介して

支那の農村経済がその農産物とその消費關係に於て大なる原因を保持してゐること論も俟たないことである。支那の農業生産が支那經濟の一大部門であると同時に支那に於ける産業の中心をなしてゐることは既に諸君御承知の通りである。|| 自然支那が農業經濟を社會的基礎としてゐる國家であることは ||

支那の農村経済は農業社會に於ける半封建的、半殖民地的經濟機構に構造付けられ乍ら慢性的な恐慌を續けつゝあるのである。農民の階級的介化は漸を逐いて特徴付けられ行くと共に農業恐慌が更に頻出する所の災害の加重につれて急性化する様になり、そうしては恐慌の急性化は食料の生産不足と商品化的農産物の生産過剰との相矛盾した二つの特質を顯出し、それに基く恐慌が遂に農村經濟の全面的破産にまで之を導いたのである。加るにその間自然條

五

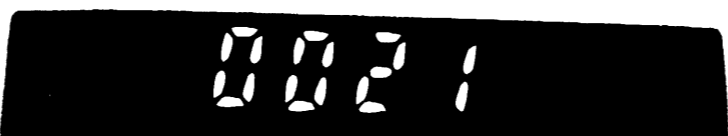
件、社會條件の劣悪を克服すべき社會的施設の缺如と農村の貧窮とが之等の自然的條件の劣悪を調節し得る能力を缺くに至つたのである。

支那農村の特性は以上の真に中心がある事は明らかである。即ち生産力と生産關係の發展の不調和が農村經濟の不斷の前進を一種の変質的なものにらしめ、所以となるのである。

歴年来に於ける支那農村經濟の凡ゆる態は農村經濟崩壞の表象であつて、このことは支那農村經濟崩壞の生々しい幾多の事實によつて之を擧げることが出来る。茲に普遍的のものに擧げらるるは、

- (1) 農業生産品の量的減少と其輸出輸入の比例的差異
- (2) 耕地面積の減少、荒地面積の増加
- (3) 農業生産物の價格低下
- (4) 農民の食料不足
- (5) 商業資本と高利貸資本の盛行
- (6) 雜税の加重に依る農民の負担の加重化
- (7) 農民の家庭手工業の一般的破産

H-0961



ii 役畜数量の減少

ii 農民の土地失地と失業者の激増

iii 高利地租の搾取と其他一般農民に對する高度なる収取

等々之等は支那の農村經濟を崩壊の淵に陥らしめた原因のものであつた。其他天災の頻發がその經濟的崩壊を促進せしむる一大原因となるのである。天災の頻發はその度毎に農村經濟の破産を結果せしむる。今此に農村經濟の破産に反映した事實を挙げるならば、

(1) 農村中に於ける盗民と盗匪の増加したこと

(2) 農民の階級の分化を益々激化せしめたこと

(3) 自然農村に於ける各種の動乱と鬪争とが尖鋭化するに至つたこと

以上は支那農村經濟破産後の病態である。此の病態の矯正に努力を捧ふこと久しく又多くの犠牲の拂はれしこと數限りないが、度重なるこの病態は全快はあこが半決になるまでには仲々のことである。支那が先づ一番に考へねばならぬ案件はこの病態の脱却に急進することであらう。そのためには支那一般社會に於ける如何なる近代的な政治行政も文化施設も其他農村を中心とする如

何なる施設工作も決して效を奏することには出来得ないのである。近時支那は之等諸病態に遭遇し幾多の方法を策行してゐる結果漸次草正緩和せられつゝ、あるニとは喜ぶべき事實である。

顧るに一九三六年に於ける支那の農業生産は豊収と農産物の價格の騰上とその輸出の増進とを促進せしむるに至つたが、之は辛じて農村經濟の総破産を喰ひ止め得たと謂ふに止まり依然農村經濟の危機を克服し得なかつたのである。農産の豊収と農業生産品の對外輸出の増加と其價格の騰上とは支那の農村經濟に對して或程度までの好影響を與へたことは勿論である。

一九三六年の農作物豊収の一般的原因は

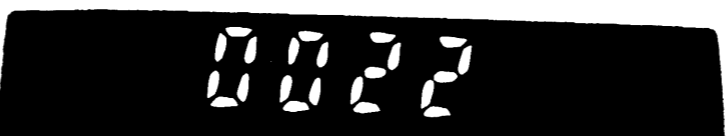
i 農業災害の軽減

ii 品種の改良の推進

iii 化学肥料の採用

等々が豊収の原因をなしてゐるが、其主要なる要素は自然的経過の良好による結果であつたことは云ふを俟たない。

農業生産の増収とその輸出増加乃至價格の騰貴等は農民としては農業經營



収入を必然的に増加せしめねば焼かないのである。即ち農業経営収入の増加は農民生計の向上を促す要素であるとは云ふ、これは剩餘農産品を有する農民を指すものであつて單に自給自足するのみ或は自給し得ない農家にとつてはそのことがない。寧ろ日用生活必需品價格の騰貴によつて農民の支出増加を招致することには勿論である。

斯の如く農民生活が依然として好轉しないのは、勿論副業の衰退と共に離村者が相変らず著しいからである。故に今後の支那農村は農主本位に働きて事終れりとせよ。家庭手工業を奨励しその生計の富を潤すべく才策を構はせしむる努力を怠らぬ。

三、支那農村經濟の建設

今次事変によつて支那の受けた經濟的打撃（最大）のは漸く成功の曙光を見つゝあつた國民經濟建設事業の挫折したことである。幣制改革は實に劃期的のものであり内外人共に大なる期待を持つてゐた。その成功が支那の統一民心の収攬、支那の對外信用の増大、諸建設事業の進展に如何に役立つたか

は想像に餘りあるのである。支那の國家的統一と諸建設事業の進展とは多年半殖民的境遇に於て民族的自信を喪失してゐた支那人に復興の自信を與へてゐた。たゞその實力週信と指導者の悪夢が今度の失敗を招いた重大原因であるのは新要支那の發展の爲實に遺憾事である。

支那事変が何時どんな形で解決されるにせよ既にさし迫つた日程として此れは一般の對支工作のプランを確立せねばならない。對支工作としてあつても勿論吾々は支那全土を基礎として其計劃を立て確固たる支那七手を握り共に歩武を進めねばならないのである。今日の支那はその形態に於て實に於て二分派になつて存在してゐる。が事實である限りさし迫つて最も關係も深く諸多の好條件下に於て北支に其の基點を置き全面的に之を考究實行せねばならぬ。

最近北支政局に重大な変化を與へたのは北支民衆自治運動である。この結果は冀東、冀察の二政權を産み前者は中央離脱の民主的自治政權であり、後者は津中実軍閥政權であつた。北支民衆運動が醒睡素として發生した政權でも冀東政權は將に民意を尊重して常に自給自治の確立強化に精進努力してゐる。

る。北支民衆が民衆運動以來特に自治に對する關心の大なるものがあることは容易に察知し得るのである。従つてその反面には横暴なる軍閥、特權階級を排撃し専ら自治に生かんとする努力は實に滾々として進んで来た。北支の民衆自治運動は實に必死の闘争であつた。けれどもその得たものは蒙東政權が稍民衆の期待に添ふ産物意外何物をも振へ得なかつたのである。斯く好成績を得ることを得なかつたのは、日本が北支政權に對して理解と後援が足りなかつたか、或いは此日本の厚意協力を對して北支政權が積極的不協の信念を持ち得なかつたか、原因してゐるのであるが今更之を論じて見た所仕方ない事である。

歴史の視ても日本と北支とは凡ゆる角度に於て不可分關係に置かれたものであつて日本の満洲を通じての北支の重大性は眞に其生命線である。日本は此處に鑑み現在の支那の對日態度を是正すると共に悠久の平和を確保する爲にも深甚なる關心の下に之が再検討再認識の必要があるのである。支那の再検討再認識の言葉は何時何處でも口にせらるゝことではあるが眞の認識は民衆と民衆の心の結合から現出さるべきものではないかと思ふ。相互の認

識と信頼によつてこそ日支間の融和は實現し日支協力によつて支那經濟の建設は促進せらるゝのである。果々述べ来た通り支那に於ける經濟更生は先づ農村經濟の培養指導に出発せねばならぬ。故に實に支那に於ける農村經濟の建設は一つの新發展である。予輩は次項に於て支那農村を基調としその發展問題につき概括的に論じて見やうと思ふ。

四 支那農村の發展問題

日本と支那との關係は遠く歴史的に結ばれてゐる。近代のものとしては日清及北支事變によつて獲得せられた利權による關係が最も大なるものであらう。日本の利權中の大部分は北支に在るがその既得權の大なるものは、

- ① 鐵道投資 約九千万円
- ② 山東河北の鑛産工場等 約一億八千万円
- ③ 駐兵權
- ④ 租界及商埠地の設定
- ⑤ 不割讓地帯の設定

山 領事館の設立及領事裁判権

四 門河航行権

五 鑛山採掘及買抗権

六 通信機關

等々斯様に日本の利権は明かに確立されてゐる。権利の濫用は非権行為であり、権利の正に服するは罪悪である。故に日本は之等の権益を正當に治のすべく努力を拂はねばならない。近時對支工論が各方面に叶はれてゐるが之は日本の當然の叶ひであつて隣邦支那への暖かき情愛の發露である。此問題に就ては種々議論があるが歸する所は皆何れも同一である。歸着点が同一であるならば各々の論は方法論に置かれ、文化工作先行論、政治工作先行論、經濟工作先行論等々あるが出發点に於て何れも都市集中を目標としてゐる限り偏見の井中蛙論であると言ふ度、おしかり決して全一の非常識論ではない。唯その見界が餘り、局部的小人的である矣に於て非難を畏へたくなる。他論を難するものは別として予輩は支那の開發工作は如何なる場合でも何特の世でも農民大衆を基調としての出發点としてはならないと思ふ。然らば支那開

十五

發の基本的プランは、といふならば之を二つに分けることか出来る。

第一には、支那民衆の救済乃至復興である。

支那民衆が専ら農業經濟に依存してゐる關係上、必然農村救済乃至復興を中心として建てられなければならない。

農村の疲弊は農産物の市價低落に由るが、より以上影響の大なるものは旱水災である。爾來支那は兩三年に旱水災交互に起り治水灌漑の問題は竟争の時代より重要國策の一つである。故に將來の平和支那に於ては準備治水備へ向けたる治水事業に没頭すべきである。

其次支那は飢饉に見舞はれてゐる國である。飢饉は支那國民經濟にとつては例外的根相であるより寧ろ正常の根相であるといつてよい。支那の如き農業國にあつては農民は常に飢饉の最大受難階級である。故に支那農民にとつて根本的の問題は飢饉防止問題であらねばならない。此の飢饉防止策として挙げらるゝ事項を述べおこなはる。

一 水害防止、灌漑工程………之等の重要性の理由は自由労働者の使者以外に種災民への仕事は供給となる。

④ 公路建設に伴う運輸の改善……此理由は之によつて人口、動資の自由移動を齎らし急激な飢饉、織物のみならず土産の発生とその破壊に抗し得る一方農産物運搬費の低廉の効果を上げ得る。
 この二計劃が實現されて土地所有問題、土地課税問題、農産物の改良、金融取費機関の共同的供給等の積極的手段が企圖されるのである。

⑤ 主要穀物の改良、養蚕業の復興、牧畜及農業教育の促進をなすと共に農生産物工業化(農村工業化)の徹底によつてこそよりよき農村の隆盛は望まらざるを得ないのである。

支那民衆の生活状態を觀ると農業經營による所得は計り難く維持出来ぬことを察知し得る。そこで何等かの方法で其生活補助を要求してゐるのである。これは家庭手工業として現はれ農家の副業として農家経済に於て重要な意義を持つものとなつてゐる。

民國二十四年實業部の中央農業實驗所の調査による主たる農家の副業の狀態を示すならば左の通りである。

| | |
|-------|-----|
| 養魚 | 五〇 |
| 防紗織布 | 二三九 |
| 麦桿製田 | 一一 |
| 幫傭 | 一七六 |
| 割柴半 | 二七一 |
| 兼業小商販 | 一五一 |
| 兼業木匠 | 七五 |
| 兼業裁縫 | 四四 |

(昭和十三年)支那經濟年報(ヨリ)

右の通り支那農村副業が農民の生計の上には於てや何に重要な地位に在るか忽せにその出末ぬ。此の突今後の農村對策問題の一部子として充分研究し考へて見る必要がある。

(六) 農村合作社の支持発展

支那農業の再建と發展には結局最進歩的合理的な合作社運動を中心として工作される外途はないのである。此運動は内地の産業組合運動と同一形態の

ものであつて此合作社なるものは必然に富農本位の機構となし十分小中農大衆の救済と向上に役立つこととせねばならぬ。

支那に於ける合作社が合法的承認を得たのは一九三四年二月に於ける合作社法の通過である。即ち日本に於ける一八九八年産業組合法案通過より二十五年後印度に於ける信用組合法案通過より二十年後である。しかし合作社運動それ自体の發展は多事なりし一九一九年に基礎を得たのである。この年は支那が「ヴェルサイユ會議」に招待を受け、支那に現代化運動が勃興した年である。指導は復旦大學薛仙舟教授及國民黨の孫文及戴季陶を含む多くの人々が幕げられる。最初の都市信用合作社は一九一九年薛教授により組織されたが農村信用合作社はそれより後北支旱魃を機として根本的防止手段として華洋義賑會により具体化されたのである。

農村の振興、教育、金融を主たる目的とする義賑會の活動によつて河北に於ける農村信用合作社は一九三三年の八社から一九三七年の五六一社に増加し其組合数は五六名から一三一九〇名に激増し、一九三五年末に於ける二六、二二四社の社員は一〇〇、四四二名と云ふ驚異的起達の發展をなしたものである。

六七
六八

ある。

最近合作社の目的が確定堅實のものであり其進展が急速確固たるものである。其に於て最近國民政府は農村の復興運動として合作社の組織擴大に努力しつゝ、ある。言ふ迄もなく合作社は農村の協同組合であつて信用組合が過半数を占め農村の資金を融通し兼ねて農業技術の指導による生産の増加と品質の改良及び統一を圖るのであつて殊に棉花の改良増産に力を注いでゐるのである。一方更によつて支那民族性の欠如とも云ふべき利己的放漫性を矯正し而して共存共栄の念を力強く植付け新らしき民族意識が、出だ最も新歩的な農村を建設する大なる使命と抱負を持つてゐるのである。

斯る意味に於て合作社運動の徹底化は今後の農村經濟の發展と共に大いに力あるものである故に、益々この運動を奨励指導し共存共栄の實を結ぶべく努力したさねばならぬ。斯くしてこそ農村問題解決の難門は自ら開く扉にならぬのである。

第二には 資源開發の工作である。

支那は全土に亘つて豊富な資源を藏してゐる。殊に北支は中南支に比して

その豊富なること優位にある。北支那は寒暑の差甚だしく且雨量の不足、不定並にそれに伴ふ旱害水災を蒙るに多く氣象的に恵まれないが併し一面に於て廣大肥沃な中原大平野を有し西部高地帯も幸に農業に好適な黄土を以て被覆されてゐる。高温多湿を要する米、茶は南支に劣るが早稲農業である小麦、大豆、高粱粟の如きは到る所に多く、全支の大半を占めてゐる。殊に寡雨を喜ぶ棉花は大したものである。故に北支は支那農産物の寶庫であると言はれてゐる。概して北支は農業本位の經營によつて成立つてゐる、然かもその農業は畑作に依存してゐる。農戸数が幾千数の八割以上もあつて河北、河南、山東、山西は最も農家が多い。畑地の面積は全耕地の九割三分、水田の面積は七分の比であつてこれによつても北支は畑作中心の農業地であると言ひ得るのである。今農村經濟發展策の基調として取立て、論じたのは主なる資源の開發工作によつてゐるが之等主要資源によつて予輩の見界を以て解剖するならば次の通りである。

(一) 農産資源

支那が農本國であり其住民の八五割が農民であるならば如何に農業が支那國にとつて重要な役割を演じてゐることか解る。年々支那農産品と畜産とがその輸出品の地位を占め、多くの利を齎してゐることは今後、支那に於ても其發展上注視し研究して行かねばならぬ問題である。

農産物の主なるものは米、小麦、大麦、高粱、粟、豆、棉花、落花生等であるが内日本との關係に於て重要なものは小麦と棉花である。北支に於ける棉花の改良栽培が積極的に行はれる董東政府は滿洲棉花協會と提携して遼大な地域に試作して成績の如何によつては悉く棉花化しようと意氣込んでゐる。が疲弊してゐる農村復興には適切な事業と云へよう。

日本も青島には永年積成した多くの資財を有してゐた。最大なものはお金、工場である。その蓄積された資源が今日では血迷の大將韓復榘のため一糸も残さず灰燼に歸してしまつたのである。併し吾々は落膽してはならない、雨降つて地固まる。謗がある。今後も屈せず東洋經濟發展のため多くの資本と優秀な技術を提供して更に一激又努力を續けて行くべきである。

予輩は更に一論を加へ度い。それは農村の工業化である。支那が如何に擴大な土地を有するとは云へ無変形のものである以上それは限られてゐる。又

人口の増加と逆行して縮小されて行く、之がため土地狭小團の^(の)増となり、そこに權利が主張され闘争が起るのである。ましてや農生産品を基調として論ぜらるべき團に於ては大いに考慮すべき問題であらねばならない。然らば如何にして此問題を解決するか、是れは極く複雑にして簡易である。即ち農生産物の改良を計るは勿論のこと、その生産物の加工変形による商品化によつて物資の圓滑と價値を高めるのである。筆者はこの農村工業化問題に對して常に研究を怠らないものであるが、その具體的實行案は紙面の都合上後日詳細に發表する積りである。

(二) 鑛産資源開發

各國が渾戦時体制下に國民を總動員し心を集中してゐるのは事實である。此の体制と鑛産資源とを格別取立て、結付けるべきものではないが、少くともその國の重工業の發展充實がこれだけ非常時に處するに竟、強固いものであり關係の次からぬものであるのは明かなことである。

北支の鑛産資源中主なるものは鉄と石炭とである。鉄は國防強化のためには絶対不可缺のものであり、石炭も石炭液化工業の發展が確實となつた今日國防

資源として新らしい意義を持つものである。尚鉄石炭以外に金銀銅亜鉛滿鐵等も亦忽に出來ない。

支那に於ける石炭の採掘は二十年前漢の頃より既に行はれ、元代に至り廣く燃料として消費されたのである。全支の石炭埋藏量は二千四百三十六億七千七百七十九噸に對して北支は六割を占めて居り特に山西省の如きは一省で全支の五割を占めてゐる。之を省別にして見ると次表の如くである。(單位百萬噸)

| | |
|------|--------|
| 察哈爾省 | 五・四 |
| 綏遠省 | 四七六 |
| 山西省 | 一七二・二七 |
| 河北省 | 三〇・七一 |
| 山東省 | 一六三・九 |

計 一三、八一七 百萬噸

(會田壯著「北支大觀」)

次に鉄であるが其の埋藏量は巨大な額に達してゐる。全支埋藏量三億八千万噸に對し北支は一億九千八百八十万噸で全支の五二%を占めてゐる。その埋藏量を省別に表はすと次の通りである。(單位千噸)

支那の氣候風土からして畜産業が有望であることは論ずるまでもないことであるが、今までその資源の開発工作に全力を集中し得なかつたのは支那農村經濟の發展上悲しむべきことである。今後は農耕地を除く土地には限なくこの資源開發の手を振ひ農村更生の途を計らねばならないのである。

五、結 論

以上既述した點を綜合して觀たとき、日本は今後の對支工作について速かに之を計畫し實行するの必要がある。北支建設の一大基盤は國民經濟であり、之を發展せしめるものは民衆の熱誠なる努力である。

支那に於ける經濟的開發は一定の確固たる理想と方針とを確立して之を行はねばならない。日本は今支那よりも文化的に優れてゐる。そして日支提携の下に友邦の民を幸福にする力と義務を持つてゐる。又この信念の下に今日まで多大の犠牲を拂つて來てゐるのである。將來と雖もこの信念、この理想を失つてはいけなからず、失ふはるれば日支兩國の永遠の平和と繁榮は期待し得らぬ。ないのは明かなことである。日本はこの理想を具體的な地域に表現するた

世五
共

め特別な根本方針を建てねばならない。それには前記諸案件によつて略明白であるから此に再記するのを避けるが、如何なる場合でも日本は支那と互諒的精神の下に共存共榮に事を為さなければならぬ。他の權利を認め、することは自己の權利を主張することである。

||日本人の中には支那人の自主性を全く無視し、独り勝手に支配しやうとしたり若くは支那の自尊心を傷け又その風俗、習慣、傳統を彼等の自覺を俟たないで強制的に改革しやうとしたりする者があつた。この愚をやり方は決して理想のものでなく、正しく繁榮の途ではないから斯うすることは日本人として充分注意せねばならない事である。||

支那の農業恐慌が今次事変に當つて益々激化してゐることは誰しも見逃せない明確な現實である。

支那に於ては農村は國土の殆んど全部を占め、農業は重要産業部門を占め、農民は全人口の八五割を占めてゐるのである。斯う窮乏化し購買力の減退した支那に對して日本の貿易を發展せしめ、商品市場を擴張せんがために、は差し迫り支那農民の収入増加の道を圖り、種々なる具體的方策が考究されなければ

ばならないのである。

支那の治安の基礎は農村秩序の安定にあると共に政治的紛争も亦農村に其の根深き有するのである。それ故に今日日支相互間に種々提携問題が強張とれつゝあるときにあたり、その根本的な農村問題の解決が閉却せられたらば、それこそ砂上に高塔を築くに等しい愚挙と云はねばならない。

今後日本が支那へ進出し如何なる形式に於て提携活躍するかは存せぬが、少くとも支那民意に副ふ様確固たる政策の基に眞面目な態度で共存共栄の實を擧ぐべく努力を拂はなければならぬ。

今日の急務として新支那に於ける政治工作、経済工作、文化工作が感人に論究されてゐるが、既述の通り何れも農村を主体として考へなければならぬ問題であつて、民心の安定と向上の基礎を奠へるのには先づ日支兩國の提携による文化施設の急務が一段の第一工作であらう。それは精神的に互に立場にある有邦の民に其の將來への大道意識による自覺と希望を有する機會を與へ、而して眞の東洋的精神に生きたる信念を抱かせる基礎的條件であると信ずるからである。故に文化提携による農村教育機関の完備を急ぐと共に、農民教育指

廿七
廿八

導の徹底を速進せしめねばならぬのである。斯くしてこそ支那農村の發展問題は精神的物質的の融和を見せると同時に新興支那農村の復興は必然と實現され一般統治組織は完成されて行くのである。

十三、一八篇

文化
B.131
第1課

第一課

昭和十三年一月廿九日接受

拜啓 閣下彌々御清穆珍重不斜奉賀候

陳者豫テ水野梅曉氏ノ御注意ニ依リ日華佛教研究會卒
先唱導シ佛教聯合會其他ノ諸會ト提携シテ創立シタル
善隣慈友會ハ北支救世新教本部トモ打合セ又全國賣藥
業同業團體聯合會ノ協賛ヲ得テ着々事業ヲ進捗致居候
間御會置被成下度御參考マテ別封關係書一括高覽ニ供
シ候條何卒御一瞥ノ榮ヲ賜リ度願上候

尚日本橋區本町壹丁目九番地株式會社玉置商店同封
寄贈目錄ノ通り本事業ニ對シ特別援助ノ厚意ヲ寄セ協
賛ノ實ヲ表シ候ニ付甚ダ勝手ケ間敷御願ヒニテ恐縮ノ至

リニ奉存候得共本會ノ事業御保護獎勵ノ思召以テ同
店ニ對シ特ニ何等カ御沙汰ヲ賜ハラハ難有仕合セニ奉存
候右御報告ニ併セ特ニ懇願ノ次第如斯得貴意候敬具

昭和十三年一月二十八日

日華佛教研究會會長

善隣慈友會代表者

大僧正 佐伯定



岡田外務省文化部長閣下

侍曹御中

H-0961

東京女子醫學專門學校學生監

成田 哲夫

住所 東京市豊島區巢鴨二丁目二〇九六
勤務先 電話牛込二二三一一。一六二

東京女子醫學專門學校教務課

上原 清次

東京市板橋區深田町
二丁目三六五九番地

御参考迄(文案)

難民ノ救護ヲ目的トスル善隣會
當方ニ於テモ種々計劃實行中ニ
代表者ニ對シ賛意ヲ表シ置候處今
刊別ノ御援助ヲ得候趣報告ニ接シ
此種事業ハ刻下最モ適切ニレテ且
大献スル所歟カラズト被存候折柄
意ニ對シ特ニ謝意ヲ表シ度如斯

得貴意候 敬具

昭和十三年 月 日

尊名 外務省文化事業部長

株式會社玉置商店御中

同店ノ所在ハ日本橋區本町二丁目九番地ニ候

御參考迄(文案)

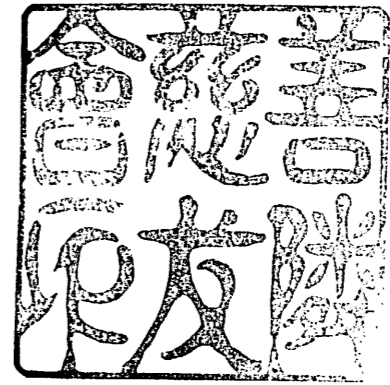
拜啓陳者北支難民ノ救護ヲ目的トスル善隣會ノ事業ハ現ニ當方ニ於テモ種々計劃實行中ニ付豫テ同會代表者ニ對シ贊意ヲ表シ置候處今回貴店ヨリ特別ノ御援助ヲ得候趣報告ニ接シ欣快ニ存候此種事業ハ刻下最モ適切ニシテ且宣撫工作ニ貢獻スル所歟カラズト被存候折柄貴店ノ御厚意ニ對シ特ニ謝意ヲ表シ度如斯得貴意候 敬 具

昭和十三年 月 日

尊名 外務省文化事業部長

株式會社玉置商店御中

同店ノ所在ハ日本橋區本町一丁目九番地ニ候



佛教聯合會取扱第壹回北支難民救護用寄贈藥劑目錄

個數 六萬七千九百七十六個

| 効能 | 品名 | 單價 | 個數 | 寄贈者住所 | 氏名 |
|--------|-------|-------|---------|-----------------|-----------|
| 胃腸藥 | 回活 | 一。銭 | 二。五。〇 | 東京市芝公園地十五號四番 | 浄土宗務所 |
| 同 | 同 | 同 | 三。七。五。〇 | 京都市東山区林下町 | 浄土宗總本山知恩院 |
| 同 | 同 | 同 | 一。二。五。〇 | 同 所華頂會館内 | 日華佛教研究會本部 |
| 感冒藥 | 田中淨熱藥 | 二。銭 | 一。〇。〇 | 東京市浅草區神吉町幡隨寺 | 同 會東京支部 |
| 同 | 同 | 同 | 一。〇。〇 | 同市日本橋區本町四丁目 | 田中濟起堂 |
| 胃腸藥 | 回活 | 一。銭 | 二。五。〇 | 同市芝區新堀町三六番地 | 曹洞宗務院 |
| 同 | 同 | 同 | 二。五。〇 | 同市芝區二本樓町三番地 | 日蓮宗宗務院 |
| 感冒藥 | 加被散 | 二。銭 | 二。〇。〇 | 同市芝區愛宕町一丁目真禪寺中 | 智山派宗務所 |
| 同 | 同 | 同 | 一。〇。〇 | 同市小石川區大塚坂下町護國寺中 | 豊山派宗務所 |
| 外傷塗擦劑 | アスピリン | 二。銭 | 一。〇。〇 | 同 | 同 |
| 同 | メントム | 三。銭 | 一。〇。〇 | 同 | 同 |
| 小児藥 | セメンエン | 二。銭 | 一。〇。〇 | 同 | 同 |
| 清涼氣附解毒 | 寶丹 | 二。銭 | 一。〇。〇 | 同 | 同 |
| 清涼劑 | 清心丹 | 二。銭 | 一。〇。〇 | 同 | 同 |
| 胃腸藥 | 太田胃散 | 一。〇。銭 | 五。〇。〇 | 同市小石川區氷川町五九番地 | 太田信義藥房 |

小計貳壹、壹。個 此價額壹、四。參圓

北支難民救護用各種藥劑玉置商店寄贈目録

| 効能 | 藥品名 | 單價 | 個數 | 住 | 所 | 氏名 |
|--------|--------|------|-----|---|---|----|
| 喘息薬 | 喘息アミン | 二圓 | 九〇三 | 同 | 同 | 同 |
| 喘息補助煙草 | 金剛 | 二圓五錢 | 二〇四 | 同 | 同 | 同 |
| 血壓鎮静薬 | フロアミン | 一五錢 | 二〇〇 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二圓五錢 | 一一〇 | 同 | 同 | 同 |
| 腹痛薬 | トシヨロイン | 四圓五錢 | 一九〇 | 同 | 同 | 同 |
| あせも薬 | ハタアセモ薬 | 二〇銭 | 一〇四 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 三〇銭 | 一六八 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 五〇銭 | 一二 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 一七〇 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 三〇銭 | 一一〇 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 五〇銭 | 七九 | 同 | 同 | 同 |
| 胃腸薬 | カクロ胃腸薬 | 見本品 | 四二 | 同 | 同 | 同 |
| 小児薬 | 百人丸 | 三〇銭 | 四五一 | 同 | 同 | 同 |

東京市日本橋區本町一丁目九番地 株式会社玉置商店

| | | | | | | |
|-----|--------|-----|-----|---|---|---|
| 小児薬 | 百人丸 | 一圓 | 四八四 | 同 | 同 | 同 |
| 胃腸薬 | 福助胃腸薬 | 二圓 | 一九五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 一圓 | 一一四 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 五〇銭 | 五五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 九〇銭 | 二六〇 | 同 | 同 | 同 |
| 痔の薬 | カイサン錠 | 三圓 | 二七〇 | 同 | 同 | 同 |
| 補血薬 | 日 日 | 一圓 | 三七〇 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 一八〇 | 同 | 同 | 同 |
| 胃腸薬 | 蘇和煎 | 一圓 | 四〇 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 二八 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 一〇銭 | 三〇 | 同 | 同 | 同 |
| 清涼劑 | 山崎ゼム | 五〇銭 | 五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 三〇銭 | 二四 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 四五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 一五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 一五 | 同 | 同 | 同 |
| 治傷薬 | 石田ホルム膏 | 二〇銭 | 一五 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二〇銭 | 一五 | 同 | 同 | 同 |

東京市日本橋區本町一丁目九番地 株式会社玉置商店

H-0961

0037

| | | | | | |
|-----|--------|-------|-----|---|---|
| 含嗽藥 | 塩刺 | 二。銭 | 一。 | 同 | 同 |
| | 神涼湯 | 五。銭 | 三。 | 同 | 同 |
| | 同 | 二。銭 | 二。 | 同 | 同 |
| 脚氣藥 | ベツセイ | 二。銭 | 一。 | 同 | 同 |
| | エルヘチン錠 | 五。銭 | 二。 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 二五。粒入 | 三。 | 同 | 同 |
| 口唇藥 | カイヨール | 二。銭 | 二。 | 同 | 同 |
| 皮膚藥 | メンソラ | 四。銭 | 九六。 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 八。銭 | 六。 | 同 | 同 |

同上玉置商店取纏各店寄贈目録

| | | | | | |
|------|-------|-----|-----|-----------------|---------|
| 頭痛藥 | アースタム | 見本品 | 一。 | 東京市小石川區試野町三番地 | 中村信治藥房 |
| 皮膚病藥 | 同 | 見本品 | 五。 | 兵庫縣赤穂郡坂越港 | 木村製藥所 |
| 小兒藥 | 山川アミン | 見本品 | 一五。 | 東京市中野區沼袋北三丁目九番地 | 丹澤化學研究所 |
| 救胃藥 | 同 | 見本品 | 五。 | 同市麹町區丸の内區七丁目四階 | 山川製藥所 |
| 快通劑 | 同 | 見本品 | 三。 | 同市杉並區高圓寺百八番地 | 大六製藥研究所 |

| | | | | | |
|------|--------|-----|-----|-----------------|----------|
| 鎮咳劑 | セキチン | 二。銭 | 六。 | 東京市小石川區原町三丁目番地 | 吉松登陽 |
| 解熱劑 | コルキミア | 二。銭 | 二。 | 横濱市中區神天町二丁目 | 和田耕平 |
| 吸出し藥 | 同 | 二。銭 | 六。 | 東京市港區橋本三丁目番地 | 町田新之助 |
| 清涼劑 | 清桂片 | 見本品 | 五。 | 同市日本橋區芳町三丁目八番地 | 高木與兵衛 |
| 婦人藥 | 中將湯 | 二。銭 | 一。 | 同市日本橋區道三丁目一番地 | 津村順天堂 |
| 心臟藥 | 救心 | 見本品 | 三。 | 同市京橋區西八丁堀三丁目七番地 | 救心本舖 |
| 皮膚病藥 | オゾ | 見本品 | 五。 | 同市大森區新井宿三丁目五番地 | 都南荘 |
| 疲勞回復 | リツカ | 二。銭 | 一五。 | 同市小石川區関口町 | 大正製藥所 |
| 吸出し藥 | 歌橋ピツク | 二。銭 | 六。 | 同市品川區南品川五丁目三番地 | 歌橋製藥所 |
| 呼吸器藥 | 丹平呼吸器散 | 二。銭 | 一五。 | 同市日本橋區道三丁目三番地 | 丹平商會 |
| 皮膚病藥 | ハウト | 二。銭 | 五。 | 同市四谷區右京町八番地 | 加藤翠松堂東京店 |

玉置商店寄贈分 二五、四四。計四六、八七六個
同 商店取纏分 二壹、四三六

此價額見本品貳壹、七五。個及脚氣藥エルヘチン錠貳百五拾粒入共百個ヲ除キ
金貳萬六千九百拾壹圓七拾錢也

東京日日新聞社

隨書 慶應の侯爵々御清徳の殿慶親率り
陳者弊社に於きましては陽春の候を期し東京、名古屋、大阪
の松坂屋を會場と致し、支那新政權の樹立を祝願すると共に
一統大業に對し新支那の國體を促すやうな展覽會を計劃致し
てをります

就きましてはこれが計劃に對しまして御高見を承り、成るべ
く立派な展覽會を開催して、所期の目的を達成仕りたく存じ
ますので御務忙中誠に恐縮には存じますすが来る廿八日午後六
時、目黒區三田十二番地磯山莊まで御光臨賜はり度く御願ひ
申上げます
先は右御願ひ趣如新に御座います

敬具

東京日日新聞社

一月二十四日

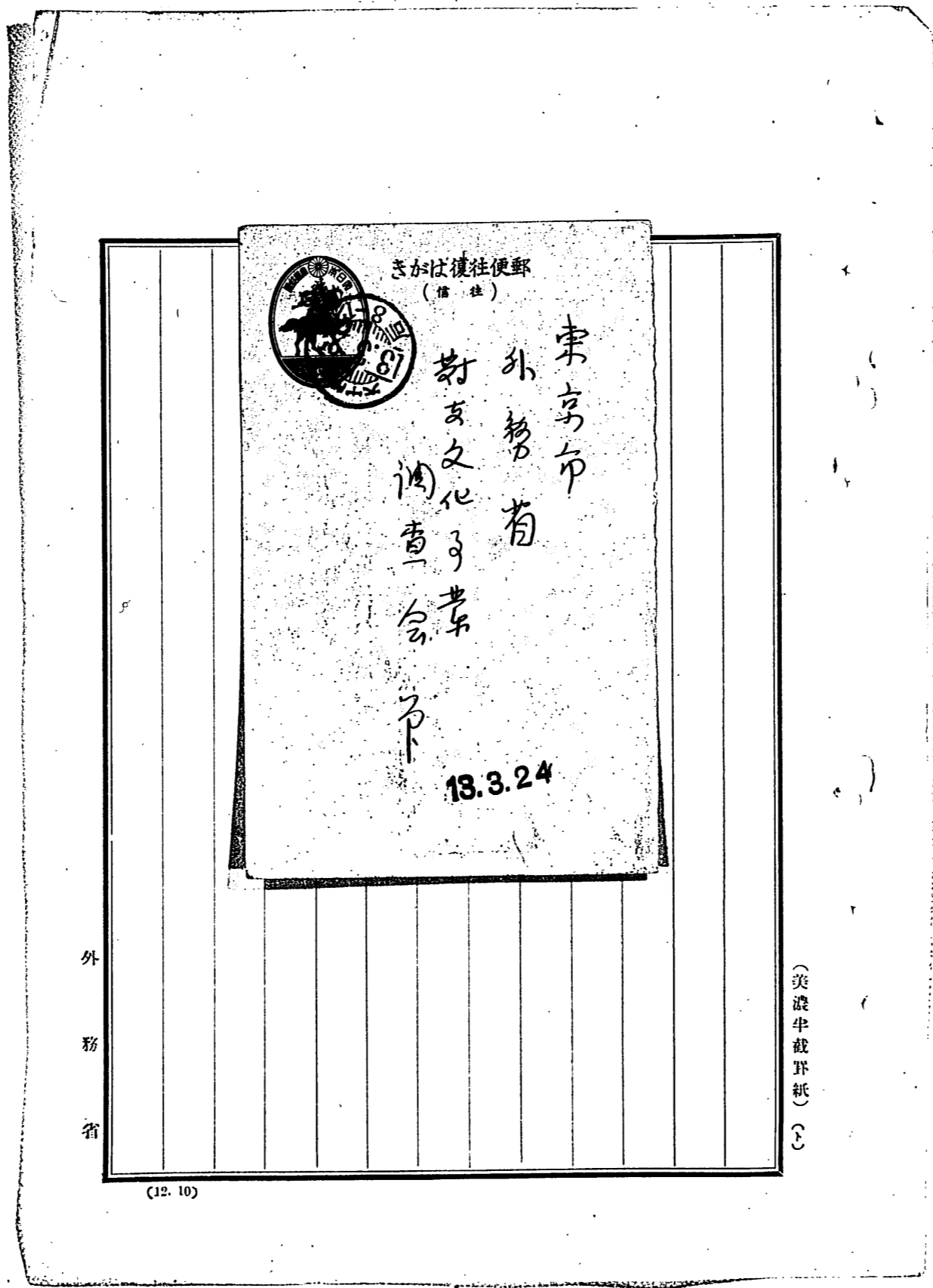
林 安

侍 史

大阪毎日新聞社
東京日日新聞社
専務取締役
山 田 潤 二

H-0961

0039

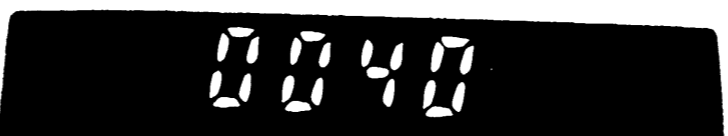


外
務
省

(美濃半截界紙)

(12. 10)

H-0961



謹啓 寒威漸く相加はり申候處益々御勇健之段奉賀候
扱て弊社前社長故本山彦一翁逝て茲に五年、今般その傳記上梓仕候
については別便を以て一部御座右に敬呈仕候御一讀を賜はらば故翁
も慙かし地下にて光榮に存上ぐる事と存候
右御案内申上げ度如此に候
敬具

昭和拾参年正月 日 大阪毎日新聞社

昭和拾参年四月廿七日 谷尾 貞吉

同社社務部から贈呈の上は別紙に添付して第二欄に添付願上候



H-0961

0043